

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース／吉  
井 健治

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

平成25年度は、前期に「カウンセリング論」、後期に「生徒指導論」を担当している。  
授業内容では、教育相談と生徒指導における知識と実践力の習得を目指した授業実践を行う。  
授業方法では、具体的な事例を提示して、事例の理解と対応に関する授業実践を行う。  
成績評価では、従来の試験に加えて、自己省察力の観点からの評価を行う。

#### 2. 点検・評価

「カウンセリング論」及び「生徒指導論」の授業内容に、専門知識に関する事項に加えて、実践力の習得につながる事項を含めた。  
授業方法としては、具体的な事例を提示して、事例の理解と対応について学習することができるような工夫を行った。  
しかし、成績評価の方法については、いろいろ検討したが、今年度の実行はできなかった。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ①学生相談に関して他大学のシステムを参考にしながら充実を図る。
- ②大学院生の就職及び資格試験のための支援を積極的に行う。

#### 2. 点検・評価

- ①日本学生相談学会の「学生相談研究」の学術雑誌を読んで、全国の大学における多様な実践について検討した。
- ②大学院生の就職、特にスクールカウンセラーの就職への支援を積極的に行った。具体的には、スクールカウンセラー実習の指導、教育委員会との連携などである。
- ③依頼があって、学生への対応に苦慮されている教職員への学生相談に関する支援を行った。

### Ⅱ－2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ①著書の執筆を行う。
- ②臨床心理士養成のための学外実習のあり方や方法について検討する。

#### 2. 点検・評価

- ①著書の4分の1を執筆した。
- ②臨床心理士養成のための学外実習のあり方や方法を検討した。スクールカウンセラー実習、訪問臨床実習において、教育委員会等と連携を図りながら、学生の実習に対する指導・支援を積極的に行った。
- ③文部科学省初等中等教育局児童生徒課の「いじめ対策等生徒指導推進事業」の委託を受けて研究を実施した。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ①委員としての任務を積極的かつ適正に遂行する。
- ②大学院の定員確保のための取り組みを行う。

### 2. 点検・評価

- ①臨床心理士養成コース長、大学院教務委員の任務を積極的かつ適正に遂行した。
- ②大学院の定員確保のための対策について協議を行った。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①社会との連携では、スクールカウンセラーの活用において徳島県教育委員会及び市町村教育委員会と連携を図る。
- ②社会との連携では、不登校の訪問臨床において徳島県立総合教育センター及び徳島市教育委員会と連携を図る。

### 2. 点検・評価

- ①スクールカウンセラーの活用において、徳島県教育委員会及び市町村教育委員会と連携を図りながら実行した。
- ②不登校の訪問臨床において、徳島県立総合教育センター及び徳島市教育委員会と連携を図りながら実行した。
- ③ひとり親家庭の訪問支援において、徳島県子ども未来課及び徳島県母子寡婦福祉連合会と連携を図りながら実行した。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

県や市の教育委員会における様々な委員を引き受けたり、また県や市の教育委員会が主催するプロジェクトに協力したりなど、大学と社会との連携を積極的に進めているところである。